

「開拓精神君知るや」

学長 安 酸 敏 眞

新入生の皆さん、北海学園大学への入学おめでとうございます。大学を代表して心よりお祝いを申し上げます。ご父母の方々、森本正夫北海学園理事長、山崎省一北海高等学校校長、大西修夫^{ひろお}北海学園札幌高等学校校長をはじめとする、本学関係者の方々のご臨席のもとで、このような盛大な入学式を執り行うことができますことを、嬉しく存する次第です。

入学式にあたり、これから皆さんが学生生活を送る北海学園大学について、その沿革を申し上げます。北海学園大学は、戦後の復興が緒に就きだした 1950 年に産声を上げた北海短期大学を前身として、その 2 年後の 1952 年に創立されました。ですから短期大学の誕生から数えると、今年で創基 68 年になります。しかしその母胎である学校法人北海学園の歴史を繙けば、その礎石は今を遡ること 133 年前の 1885（明治 18）年に据えられました。すなわち、北海道開拓のための人材育成を目的に、札幌農学校第 3 期生の大津和^{わづ}多^た理^り（1857-1917）によって創設された「北海英語学校」がその原点です。

学園としての古さは、早稲田大学や中央大学の前身と比べても遜色がありません。しかしこのような古い歴史がありながら、大学そのものの設立時期において、首都圏の有力諸大学に大きく後れを取ってしまったのは、北海道の辺境性にその原因があります。本州と隔てられた最果ての外地、冬場の厳しい気象環境、経済基盤の脆弱さ、人材確保の難しさなどが、その主な要因です。にもかかわらず、本学園の先人たち——浅羽靖^{しずか}（1854-1914）、戸津高知^{たかち}（1872-1959）、上原轍三郎^{てつさぶろう}（1883-1972）など——は幾多の困難を乗り越えて学園を存続発展させ、その奮闘努力の土台の上に、68 年前についに北海学園大学の前身の北海短期大学が誕生したのです。このことをしっかり肝に銘じていただきたいと思います。

現在、わが北海学園大学には、経済学部、経営学部、法学部、人文学部、工学部の 5 つの学部があり、その上には 5 つの大学院研究科と、さらに専門職法科大学院法務研究科があります。3 月末現在で、在学生約 8300 名、卒業生約 8 万 7000 名を数えますので、名実ともに北海道最大の私立総合大学として、その地位は揺るぎないものになっています。

さて、「開拓精神君知るや」という式辞の表題は、新学生歌「北の都に」の二番の歌詞に見出されるフレーズです。そこには「石狩の野にきらめく星は 凜^{りん}とそびゆる北海の 熱き希望の象徴なる 開拓精神君知るや・・・」と謳われています。

今年は北海道という名称が太政官布告で定められ、また開拓使という官庁ができてからちょうど 150 年目に当たる記念すべき年です。開拓使は北方開拓のために、1869 年 7 月 8 日から 1882 年 2 月 8 日まで置かれていましたが、札幌農学校は開拓使の事業の一環として、1876 年に設立されました。それは我国で一番古い大学である「東京大学」の創立に一年先立っていますので、日本最古の高等教育機関であるといえます。本学の初代学長である上原轍三郎は、1905 年に札幌農学校に入学して、1912 年に卒業しました（卒業の時点で、札幌農学校は東北帝国大学農科大学に改称されていた）。上原は東北帝国大学農科大学、のちに北海道帝国大学の助教授・教授を歴任し、退官後、北海短期大学および北海学園大学の学長に就任しました。彼は拓殖学ないし北海道開拓史研究の第一人者で、屯田兵制度や開拓土地制度などに関する多くの著書を遺しています。

上原は、「創立者たる故浅羽靖の提唱せる開拓者精神を薫育のモットー」（1949 年 10 月に文部省に提出された北海短期大学設置申請書）として決めました。建学の精神は当初から「開拓精神」とも「開拓者精神」とも言い表されていますが、両者の間に意味の相違はありません。いずれにせよ、新入生の皆さんには「開拓精神／開拓者精神」が本学のモットーであることを、しっかり胸に刻みつけてくださるよう切望します。

ところで、「開拓精神／開拓者精神」とはいかなるものでしょうか。またこれを掲げる意味はあるのでしょうか。今の北海道は隅々まで開墾され、開拓時代の名残はほぼ消え失せています。現代のわたしたちは、すっかり整った環境の中で、奮闘努力しなくても、快適に暮らせるようになっています。このような時代に「開拓精神／開拓者精神」を掲げる意味はどこにあるのでしょうか。それは時代錯誤の懷古趣味ではないでしょうか。

「開拓精神／開拓者精神」を理解するために、アメリカの「フロンティア精神」(frontier spirit)を参照してみましょう。ある学者は、「ヨーロッパ人を変えてアメリカ人にした主要な要因は、所有者のいないフロンティア (the unpossessed frontier) の存在であった」と述べています。フロンティアとは、開拓地（伐採と開墾が進み、すでに耕作と統治とに服している土地）と未開拓地（野生の猛獣と未開の原住民が住んでいる土地）の間に、帯状に横たわる境界地域のことで、ときに「開拓前線」とも表記されます。そのようなフロンティアに生きる「辺境人」(frontiersman)は、衣食住の細々したことから外敵から身を守ることに至るまでの一切合切を、「自分自身の力で」行わなければなりません。警察も消防も病院もありませんので、そうするしかなかったのです。かくして、「独立独行」(self-reliance)がフロンティアで形成されたアメリカ人氣質の第一の特質になったのです。

北海道開拓に淵源する「開拓精神／開拓者精神」は、アメリカの「フロンティア精神」とほぼ重なり合うものです。その一番の特徴とされる「独立独行」は、「官に依拠せず自ら歩む自立・自律の在野精神」と言い換えることも可能です。「自立」と「自律」という「二つのじりつ」は、開拓時代がはるか遠くに遠のいた現代においても通用する、普遍的な行動原理であり、これがわが北海学園大学の建学の精神を読み解くキーワードです。

「開拓精神／開拓者精神」は「チャレンジ精神」でもありますが、未知の事柄に勇猛果敢に挑戦するかかる精神こそ、まさにいま必要とされるものではないでしょうか。二十一世紀は「海図なき時代」と言われます。つまり既成の概念の枠組みや常識ではやっていけない時代がすでに到来しているのです。かつてヨーロッパから新大陸に移住してきた移民たちや、明治初期に本州から北海道に渡ってきた人々は、原生林と獰猛な野獣に象徴される厳しい大自然と格闘しながら、身一つで自分の道を切り拓くしかありませんでした。同じように、二十一世紀のわたしたちも、既存の仕組みを頼ったり、既成概念にとらわれたりせず、自らに責任を負う自己として、主体的に未来を切り拓いていく必要があります。

新入生の皆さん！これから始まる四年間の学生生活を、世間一般の大学生のように漫然と過ごすのではなく、自分なりの明確な目標と課題をもって、挑戦的・躍動的に過ごしていただきたい。北海学園大学は「地域と世界をつなぐ有為な人材」の育成をめざしています。グローバルな思考をもちながら地域に根差して活躍する人、あるいは国際舞台でバリバリ働く人になれるよう、自己鍛錬と学問研究にお励みください。そして「開拓精神／開拓者精神」を体現した気骨ある人間として、自己を形成してってください。以上をもって学長の式辞といたします。

2018年4月3日